

# 同志社大学

## 2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2015年3月15日提出

所 属	職 名	氏 名
全学共通教養教育センター	助教	丸田祥一
研 究 題 目	留学準備のための TOEFL (ITP&iBT) 授業を通じた良心教育および国際主義教育の可能性について	
研 究 成 果 の 概 要	<p>春学期： 基本的な成果は昨年と共通する部分が多いが、コース運営上の大きな変更点として、上級クラスが設置された点があげられる。テキストも上級用のテキストを採用し、よりレベルの高い学生の必要性に応えることができた。しかし、登録に際して英語力の証明（スコアや資格の提出など）は求めず、登録目安として一定のレベルを提示するに留めたため、授業についてくるのが困難な学生もいた。従来のクラスは、昨年度の成果を見据えながら安定的な指導を行えたが、上級クラスにおいては今後さらなる試行錯誤が必要である。</p> <p>夏期集中講座： 昨年度は、希望者を対象に、夏休みを利用して3時間×3日間の集中講座を今出川、京田辺の両キャンパスで行ったが、今年度は国際課が同様の講座を4時間×5日間の日程で主催したため、私はそのサポート役に徹した。正課 TOEFL 授業を通して得た知見を活かし、短期集中講座に適したテキストを選定し、国際課が招いた講師に対し、学生の気質やレベル、授業スタイルについてのアドバイスをを行った。昨年度との違いは、TOEFL ITP500 点目標コースと 550 点目標コースの 2 クラスが開講されたことである。意欲の高い学生が集まり、特に 500 点目標クラスでは大幅にスコアを伸ばした学生が出るなど、昨年同様、有意義な試みとなった。しかし一方で、550 点目標クラスでは目標スコアに到達した学生が一人も出ず、伸び悩みが目立った。TOEFL ITP は、400 点台の学生のスコアは比較的伸びやすいが、500 点を超えたあたりから、それまでと同じような学習方法を継続するだけではスコアの上昇は困難となる。今後、550 点というハイスコアを実現するためにはどのような指導法・学習法が有効かを検討する必要がある。</p> <p>秋学期： 基本的な成果は春学期とほぼ同じである。時間割の関係上、上級クラスは担当しなかったため、上級クラスにおける課題は次学期に継続して取り組みたい。</p> <p>春期集中講座： 今年度から、夏期集中と同様の時間数、クラス数で、国際課が初めて春期集中講座を開催した。夏期集中の際と同様、私は国際課と担当講師との間のサポート役・仲介役を務めた。先日終了したばかりでスコアはまだ出ていないが、担当講師より、「大変充実した良い講座だった」との報告を受けている。後日、スコア分析を行い、次年度に向けた改善点を検討したい。</p>	

実践報告の執筆：

「“Intensive Courses for TOEFL”の取り組み

ーグローバル人材育成における英語教育に関する一考察」

と題する実践報告を執筆し、同志社大学 学習支援・教育開発センター年報第7号に投稿した。  
現在、査読中。

出席した学会・講演会：

’15 7/4 TOEFL アライアンス / CIEE 共催

第3回 TOEFL iBT 指導者向け養成講座

「CLIL とは？ CLIL の考え方を如何に TOEFL テスト指導に活かしていくか」

於) ホテル新大阪

’15 10/17 TOEFL アライアンス / CIEE 共催

第4回 TOEFL iBT 指導者向け養成講座「Quadratic Structure の実践」

於) エル・大阪本館

’15 11/14 TOEFL アライアンス主催

英語教育改革フォーラム

午前の部「グローバル社会で働くために」

午後の部「大学入試改革と発信型英語教育のあり方」 於) 内田洋行ショールーム

’15 11/20 同志社大学創立 140 周年記念シンポジウム「リベラルアーツ教育の日米比較」

於) 同志社大学良心館 107 教室

’16 1/22

良心教育に関するシンポジウム 於) 同志社大学良心館地下1教室

’16 1/24 同志社大学 FGSS 主催

同志社大学アメリカ研究所 第1部門研究 第3回研究会

「戦争に抗するーケアの倫理と平和の構想」(岡野八代著 岩波書店、2015)を読む

’16 1/29 同志社大学 FGSS 主催

シンポジウム「京都で考える同性パートナーシップ制度 個人と家族のかたち」

於) 同志社大学 烏丸キャンパス 志高館 119 教室

以上